



- ・最新の情報まで対象にしている（2021年までの情報との制限がない）
- ・回答作成の基になった記事（参照したページのURL）を示してくれるという特長があり、質問回答の質がレベルアップできています。

これまでの「検索」とは違いAI機能が、一番妥当な内容を判断し、纏めて回答してくれるので、時間効率が極めて高くなります。

使い方は幅が広く、専門分野の深さも十分で、ビジネスでの活用が急務となってきております。

注1) 検索エンジンとは、ネット上のWebサイト（ホームページ）や画像、動画を検索するためのシステムです。

検索窓と呼ばれるボックスに、検索したいキーワードを入力することで、世界中のWebサイトから、検索キーワードと関連性の高いWebサイトや画像、動画を表示してくれます。有名なものがGoogleです

注2) ChatGPT-4はOpenAI社の「ChatGPT」の最新版

強力な機能の新「Bing」ですが、使用に当たっては注意も必要です。どんどん賢くなっているAI機能ですが、AIが生成するアウトプットは「正しい情報の提供に努めるが、内容の正確さの保証はない」という事です。

回答の内容を鵜呑みにせず、最終判断は自分がやるという事を忘れず、有効活用してください。

試用版は、一つの質疑テーマを続けて深められるのは、5回までとの制約があります。

## 【2】Q & A

Q：Googleには新BingのようなチャットAI検索の製品はあるのですか？

A：Googleでは開発中の対話型AI「Bard」があり、英語圏のアメリカとイギリス向けに一般公開されています。

今後、より多くの国と言語に拡大する予定との事。

日本で「Bard」が使えるようになる時期は現状では未定となっています。

---

## 【3】アドバイス

- \* 「家庭用Wi-Fiルーターもセキュリティ対策を！」

NHKのニュースでも取り上げていましたが、パソコンやスマホの無線接続に使う家庭用ルーターが、外部から不正に侵入され、サイバー攻撃の発信元として悪用されるケースが相次いでいるとして、警視庁がルーターのセキュリティを強化するよう呼びかけています。

ここ数年、国内の大手メーカーや通信会社が不正アクセスを受けて、内部のシステムに侵入される被害が相次ぎ、警視庁が捜査を進めたところ、パソコンの無線接続に使う一般の家庭用のルーターが、何者かに無断で使用され、犯行グループが攻撃の発信元を隠すために侵入した疑いがあるということです。

警視庁サイバー攻撃対策センターの副所長は「家庭用のルーターがサイバー犯罪の『踏み台』として、長期間使用されるおそれがあり、対策をお願いしたい」と表明。警視庁は、ルーターのパスワードを初期設定の単純なものから変更することや、身に覚えのない通信設定がされていないか定期的に確認するよう呼びかけています。

何者かに無断で悪用された場合、被害者となりますが、一方では踏み台として不正アクセスを受けた側である企業からみると加害者となります。

悪用されないためにも、購入時のままの Wi-Fi ルータ初期設定（SSID や管理者などのパスワード等）を変更するようにして下さい。

又、10 年近く前の古い Wi-Fi 機器をお使いの方は、セキュリティが強化された Wi-Fi 機器をこれを機に、レンタル品の交換や買い替えされることを、強くお勧めいたします。

ご不明な場合は、なんでの相談へお問合せください。

---

#### 【4】 パソコン 用語解説

##### （1）「PIN」と「パスワード」

スマホやパソコンでロック解除に利用される PIN とパスワードの役割はどちらもセキュリティ上必要なもので、第三者による機器やデータの不正利用などを防止するものです。

パスワードはインターネット上の登録やサービス、アプリなどの分野に関連付けられますが、PIN はスマホやパソコン、タブレットなどの機器本体に関連付けられます

パスワードは大小英数字と記号で組み合わせられより長いものとなりますが、パスコードとも呼ばれる PIN は、数字 4～6 桁が多く利用され、場合によっては大小英数字と記号などが利用できます。

PIN はパスワードと違い、あくまで機器に保存されるだけのものです。

どこかに転送されるケースがないため、インターネット経由で盗まれる心配が無い為数字だけの PIN でも安全性はパスワードより高いと言われています。

##### （2）「Cookie(クッキー)使用」について

ここ数年、大手企業の Web サイトを中心に、「Cookie(クッキー)使用」について同意を求めるポップアップを画面に表示するケースが多く見受けられるようになりました。

「Cookie」は、サイトを訪れたユーザーの訪問日時やこれまで何回見に来たかといった行動履歴を、パソコンやスマホに一時的に保存させる仕組みです。ネットショップで買い物かごに商品が保存されていたり、一度ログインした Web サイトにしばらくログイン状態が続いていたりするのは、この Cookie の仕組みのおかげです。

便利な機能を持っている一方で、企業が Cookie を使用することは「個人情報の侵害」に該当するのではないかという議論が、数年前から行われ法律上も制限をしています。

前提として、Cookie には個人情報を抜き出したり、特定したりするような機能や仕組みはありません。

取得できる情報は Web サイトへのアクセス履歴やログイン ID など、Web サイトの閲覧にかかわるデータのみとなっています。

しかし、Cookie より取得した情報とその他の情報を照合することによって個人を識別することは可能であり、この場合には Cookie の使用が個人情報の侵害に当たる場合があるのです。

そして近年、このように Cookie を使って不正に個人を特定しようとする動きも増



